





墳丘 (左上が北)

## 墳丘

大谷古墳は、紀ノ川の北岸で、和泉山脈の南麓にある前方後円墳で、全長67m、高さ6～10mです。後円部の頂上には、石棺を納めた穴があります。



## 埴輪

古墳の北東の端には、円筒埴輪を並べ立てていました。また古墳のくびれ部分からも埴輪の破片が見つかっています。



石棺出土状況 (南から)

## 石棺

石棺は、九州の阿蘇産凝灰岩の組合式で、長さ2.9m、幅1.6mです。家の形で、孔のある突起が特徴的です。

## 装身具と農工具

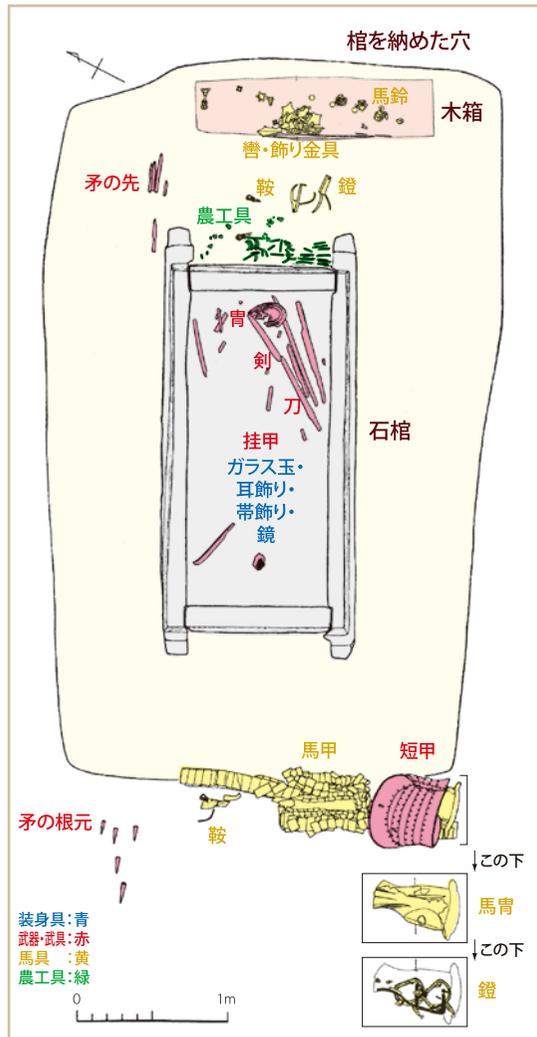
棺の中からは、身を飾るガラス玉、龍の文様がある帯飾りなどが見つかりました。また20～30歳の人歯が残っていました。棺の外には、鉄製の農具や工具のミニチュアや、滑石製の玉があり、埋葬の儀式で使用したようです。



装身具 (玉類・帯飾り)



農工具 (鍬・鎌・手斧・鑿・鉤)



墓に供えた品物が見つかった様子

## 馬の飾り

棺の東には、木箱が置かれ、箱は腐朽してなくなりましたが、中の品物は残っていました。馬の口につける轡や、飾り金具がありました。飾り金具は、金銅製で、美しい唐草文様があります。このような豪華な飾りは、当時珍しいものでした。



上から 轡・馬鈴  
下左 辻金具 (革帯を留める金具)  
下右 杏葉 (飾り金具)

## 馬の甲冑

馬用の甲冑は、高句麗古墳壁画などで知られていましたが、実物としては東アジア初の発見でした。その後、韓国で20例以上が発見され、中国東北部に源流がある騎兵装備が、朝鮮半島を経て日本に持ち込まれたことが明らかになりました。



馬冑・馬甲の小札の一部

## 武器・武具

棺内には、冑と挂甲 (小札を連ねたよろい)、刀、剣、鍬、胡録 (矢筒) がありました。棺の西には、馬の甲冑とともに、短甲がありました。棺の北には、矛が置かれていました。多くの武器が見つかったことから、墓の主は武人ようです。



短甲 (棺の西出土)・冑 (棺内出土)